

若者が魅力感じる業界に

新年交礼会

道設備設計事務所協会

北海道設備設計事務所協会は21日、ホールスタ―札幌で新年交礼会を開いた。来賓24人を含む205人が、こし一年が

盛況に向かうことを期待して親睦を深めた。

林浩三会長は「60年に

一度の丙午(ひのえうま)の年。勢いとエネルギーに満ち、さまざまな課題が明るい方向に進むことを期待している」とし、



出席者の明るい未来に思いをはせた

「課題の担い手確保に向けて若い世代が興味を持ち、重要性や魅力を感じる業界づくりを連携して進めたい」とあいさつ。

北海道開発局の滝本悦郎宮崎部長は「千島海溝・日本海溝型地震の30年以内発生確率が90%に高まった。巨大地震が差し迫る中、防災拠点になる官庁施設の整備に向け、業界の協力が欠かせない。発注の平準化や適正化、I

CTの積極的活用、スライド制度の採用などを進めていく」と伝えた。

道防衛局調達部の石原弘仁部長は「昨今の安全保障環境の厳しさを反映し業務が増えている。今後力添えが大事」と協力を要請した。

道建築局の飯沼善範局長は「インフラの整備や地域建設業の人材育成・確保をはじめ、可能な限りの分離発注を進めていきたい」と呼び掛けた。

札幌市の釜石睦由都市局長は「月寒小建で替えや2030年度的全LED化に向け取り組みを予定している」と伝えた。北海道建築士事務所協会の川幡宏一会長が乾杯の音頭を取り、祝宴に入った。